

臨床研究「自家組織を用いた再建時期による乳房再建医療費の比較検討」について

筑波大学附属病院形成外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

自家組織を用いた乳房再建術には再建時期により、乳房切除と同時に自家組織で再建を行う一次一期再建、乳房切除と同時に Tissue Expander（以下 TE）を留置し、数ヶ月後に自家組織に入れ替える一次二期再建、乳房切除と自家組織再建を 2 回に分ける二次一期再建、乳房切除、TE 留置、自家組織再建入れ替えの 3 回におよぶ二次二期再建があります。

再建時期による整容性や合併症に関する報告は散見されますが、医療費に関する報告は少なく不明な点が多いのが現状です。

医療費や入院期間、外来通院回数などに関して自家組織乳房再建の再建時期で比較・検討することが本研究の目的です。

これら医療費等の違いを比較・検討することにより、患者さんが術式を選択する際の一助となり、また患者さんの満足度の高い治療を提供することにつながると考えています。

② 研究対象者

2011 年 3 月 1 日から 2021 年 3 月 1 日の期間に当院で遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁（free Deep Inferior Epigastric Perforator flap: 以下 DIEP）および有茎広背筋皮弁（pedicled Latissimus Dorsi myocutaneous flap: 以下 LD）を用いた乳房再建が完了した患者さん。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2022 年 8 月 31 日まで

④ 研究の方法

カルテ等の診療記録の調査、および科内で管理しているデータベースの利用等により、対象症例のデータを抽出し解析します。評価項目は医療費、入院期間、外来通院日数などです。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

診療記録の中の、医療費、入院期間、外来通院回数などです。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について（該当する場合は記載）

特記なし。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

佐々木正浩、筑波大学附属病院形成外科、病院講師

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されて

いる場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：形成外科 佐々木正浩

電話：029-853-3122（平日 9 時～17 時）、FAX：029-853-3122

E-mail：sasaki.masahiro.dw@ms.hosp.tsukuba.ac.jp